

■臨床心理室

1. 2021 年度目標及び方針

- 1) 無駄な医療機器の廃棄
- 2) 介入期間の短縮化
- 3) ケース検討の継続的な実施

2. 2020 年度評価

1) カウンセリング期間の短縮化

カウンセリングの実施期間が長期になる患者が増えることで、新規の患者への対応に遅延が出るようになってきていたこともあり、今年度はカウンセリング期間の短縮化を目標にした。

カウンセリングの同意書に終結についての説明を入れる、継続中の患者のカウンセリング実施期間を室内で定期的に確認する、などの取り組みを行ったが、介入中の患者におけるカウンセリング実施期間の平均は、2020 年 5 月の時点では 4 年 328 日であったのに対して、2021 年 5 月の時点では 5 年 331 日と、1 年近く増加してしまっていた。

増加してしまった要因としては、臨床心理士の退職による引継ぎのケースの増加や、心療内科の医師の交代で、カウンセリングを終結することに不安を感じる患者が増えたことなどが挙げられる。

新規の依頼への早急な対応のためにも重要な点であり、次年度もこの目標は継続することとした。

2) 常勤心理職の獲得

新卒者 1 名の獲得が出来たため、この目標は達成となった。今後人公認心理師や臨床心理士の試験もあるため、そういった面でのサポートを行いつつ、臨床的な能力向上のための教育にも力を入れていきたい。

3) COVID-19 に関わる医療者のメンタルサポート体制の構築

2020 年度末国内での COVID-19 感染者増加、また 2020 年 4 月の緊急事態宣言発令に伴い、当院でも COVID-19 に関わる医療者のメンタルサポート体制の構築が必要と判断された。精神科医師や臨床心理士、緩和ケア科などのスタッフが中心となり、COMST (COVID-19 Mental Support Team) を結成した。定期的なミーティングを行いながら、パンデミック時に起こりやすい不安に関する動画を作成し法人内で共有、相談体制の構築、鉄蕉会職員へのアンケートの実施、感染対策を行っている各部署へのインタビューの共有など、様々な取り組みを行った。

3. スタッフ構成

- ・富安哲也 (室長)
- ・奈良和子 (副室長)
- ・宮川智子
- ・片桐静香

- ・上田将史（非常勤）
- ・河田幸子（非常勤）
- ・須永聖大（非常勤）

4. 業務概要、および今年度の報告

1) 外来業務

主に心療内科・精神科や小児科などから依頼のあった患者さまに対して心理療法、プレイセラピーなどの個別相談や心理検査を行っている。必要に応じて患者さまのご家族や学校関係者など、関係施設の職員との地域連携も行っている。今年度の外来での個別相談件数は2846件であり、昨年度よりも1150件の減少であった。面接件数が2000件台になったのは、2010年度以来である。

要因としては、昨年度の半ばに1名、年度末で1名、計2名の中堅の臨床心理士が退職（1名は非常勤への変更）したこと、多施設で行っている厚生労働省科学特別研究などの事務的な業務が増加してきたこと、などが挙げられる。

今年度末でさらに非常勤1名が退職することもあり、今後に対応できるケース数はさらに減少すると考えられる。先に挙げたカウンセリング期間の短縮化などの対応がさらに求められる。

2) 精神科病棟業務

精神科病棟入院中で医師より依頼のあった患者さまに対してカウンセリングや心理検査、家族を含む環境調整などの業務を行っている。また精神科医師、精神保健福祉士、病棟薬剤師、病棟看護師と共に「生活サポートプログラム」という精神科リハビリテーションの一端となりえるグループ活動にも加わっている。今年度の精神科病棟におけるカウンセリングは20件であった。昨年度が130件であったので、件数が1/6に減少したことになる。外来のカウンセリング件数が減少したのと同様に、常勤者の減少が影響していると考えられる、また精神科病棟への入院患者そのものが減少したことも要因ではないかとも思われる。

3) コンサルテーション・リエゾン業務

一般科に入院中で身体疾患に伴う不安や落ち込みなどがある患者、またそのご家族への直接的な支援、さらに対応が難しい患者について病棟スタッフからの相談を受けるなど、身体化に入院中の患者への臨床心理学的な介入を「コンサルテーション・リエゾン業務」と呼んでいる。

臨床心理士が個別に面接を行うだけでなく、精神科リエゾンチームのメンバーとしてチームでの回診や、定期的なカンファレンスにも参加している他、腎移植科、ARTセンターなど各科の治療チームにもメンバーとして参加している。

さらに、がん・生殖を担当する奈良と宮川については、「がん・生殖医療専門心理士」の認定資格を有しており、亀田IVFクリニック幕張においても業務を行っている。それ以外にも、がん・生殖医療専門心理士の育成や、研修会の講師、研究事業など様々な活動を行っている。

今年度の依頼件数は93件と、昨年度の83件よりも10件増加したが、実際の面接件数も95件と、昨年度の113件とやや減少している、血液腫瘍内科など入院が長期になりやすい科の依頼が減り、がん・生殖など、比較的単発で終わりやすい依頼が増えたことが要因として考えられる。

4) その他の院内業務

院内の様々な研修会において講師活動や研究活動を行っている（「5. その他の活動」参照）。

5) 地域援助業務

保健センターや教育現場などの公的機関が主催するものを含め、地域で行われる様々な事業への参加、また地域で働く精神保健関連のスタッフに対してコンサルテーション活動や講演活動を行っている（「5. その他の活動」参照）。

5. その他の活動

1) 院内活動

富安哲也	コミュニケーションの基礎	KFCT レクチャー	2020年5月26日
富安哲也	動機づけ面接について	KFCT レクチャー	2020年6月23日
富安哲也	認知行動療法について	KFCT レクチャー	2020年9月29日
富安哲也	3年～4年目向けメンタルヘルス研修	院内研修会	2020年12月4日
富安哲也	共感について	KFCT レクチャー	2021年1月26日
富安哲也	大人の発達障害について	KFCT レクチャー	2021年2月16日
富安哲也	アンガーマネジメント	KFCT レクチャー	2021年3月23日

2) 地域活動

富安哲也	令和2年度 鴨川市特別支援教育専門家チーム	2020年4月～2021年3月
富安哲也	令和2年度 鴨川保健センター母子支援事業相談員	2020年4月～2021年3月
奈良和子	令和2年度 鴨川市いじめ問題対策調査会委員	2020年4月～2021年3月

3) 講演・講師活動

富安哲也	心理学	亀田医療技術専門学校	2020年4月～ 2021年3月
富安哲也	家族支援・家族との関わりについて考える	鴨川学習会	2020年8月19日

4) 学会・研究会発表

奈良和子	生殖医療の広がりにおける臨床心理学的援助	第38回日本受精着床学会	2020年10月1日
富安哲也	総合病院における多職種連携～チームの枠を超えた多職種協働を考える	公認心理士の会 年次総会・研修会シンポジウム	2020年10月3日
富安哲也	症状を目的論的に捉えることの意義について	日本個人心理学会第1回学術大会	2021年3月7日

5) 論文・著作

奈良和子 (分担執筆)	新版がん・生殖医療 妊孕性温存の診療(第4章 がん・生殖医療を支える医療 がん・生殖医療と心理・社会的サポート)	医歯薬出版 2020年
----------------	--	-------------

6) 研究活動

奈良和子・ 宮川智子	小児・AYA 世代がん患者に対する長期生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化および適切な長期検体温存方法の提案に向けた研究 研究① がん・生殖医療における心理教育プログラムの開発と介入の効果検証 「がん・生殖医療専門心理士の質的向上を志向した研究～がん・生殖医療専門心理士に関する実態調査～」	厚生労働科学研究補助金(がん対策推進総合研究事業)
---------------	---	---------------------------

文責：富安哲也